



《リウ・ドウシャト》1933年頃

世田谷文学館コレクション展 2024年度前期

～滞欧作を中心に～

2024.

4/20<sup>土</sup>～9/1<sup>日</sup>

休館日＝毎週月曜日および4/30、5/7、7/16、8/13  
(ただし4/29、5/6、7/15、8/12は開館)  
開館時間＝10:00～18:00  
(展覧会入場、ミュージアムショップは17:30まで)

巴里土産  
小堀杏奴  
油彩画展



小堀杏奴 パリにて 1932年頃

主催：世田谷区、公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館  
後援：世田谷区教育委員会

入場料＝一般200円/高校・大学生150円/65歳以上100円/中学生以下100円

\*団体料金、障害者割引あり \*企画展開催期間中は企画展チケットの半券でご覧いただけます。

\*世田谷区内在住・在学の小中学生については、土、日、祝日、夏休み期間は無料になります。

\*5月15日(水)は「国際博物館の日」(5月18日)を記念して入場無料、5月10日(金)は65歳以上入場無料

\*館内の混雑状況により、ご入場をお待ちいただく場合がございます。

世田谷文学館  
SETAGAYA LITERARY MUSEUM

# 巴里土産 小堀杏奴 油彩画展

～滞欧作を中心に～

**森** 鷗外の次女として生まれ、『晩年の父』(1936)、『朽葉色のショール』(1971)などで知られる随筆家・小堀杏奴(1909[明治42]～1998[平成10]年)は、幼い頃から絵を描くことを好み、日本洋画壇の重鎮、長原孝太郎と藤島武二のもとで本格的に油彩を学びました。さらに弟の類とともに1932年から33年にかけてパリに暮らし、アカデミー・ランソンに通いながら画業に励みます。

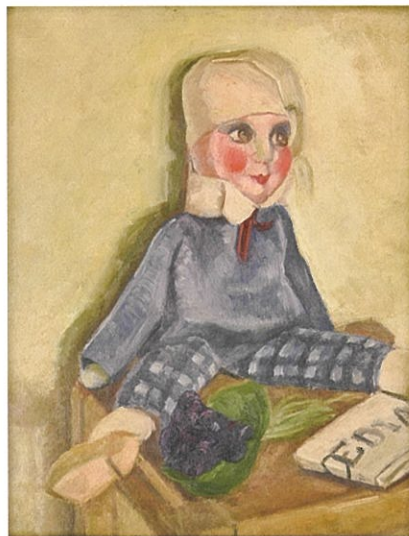
当館では世田谷区梅丘にあった画家の夫・小堀四郎との旧宅、アトリエに保管されてきた若き日の油彩作品とスケッチ類を、書簡などの自筆資料とともにご遺族から寄贈いただき、第21回(1934[昭和9]年)光風会入選作を含む作品の修復を行い、このたび皆様にご覧いただけます。

帰国後、藤島の信頼篤い弟子として杏奴の指導にもあたった小堀四郎と結ばれ、家庭を営むことで杏奴自身の画家としての歩みは半ばとなりましたが、修復を終えた作品では明るく色彩感豊かな画風、伸びやかな筆致がよみがえり、画の師としても杏奴を見守っていた四郎の様子も垣間見られます。また、実家の雑飾りを描いたと見られる油彩からは、森家の雑まつりの様子も伝わります。

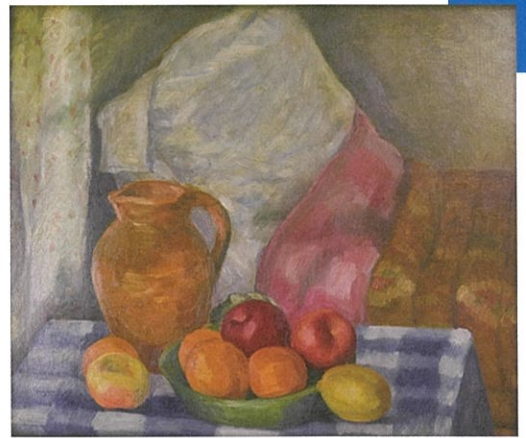
さらにフランス滞在中に母・志げ、姉・茉莉らに送った書簡など当館所蔵森鷗外家族資料を通じて、生き生きとした画学生生活、その支えとなった家族への深い思いと絆もご紹介します。



《椅子上の静物》1933年頃



《静物(人形)》1933年頃



《静物(果物と花瓶、ベッド)》1932年頃



《静物(雑飾り)》1934年頃

〔同時開催〕

「ムットーニコレクション」  
開館時間中毎時30分から上演

〔同時開催企画展〕

2024年4月27日(土)～9月1日(日)

「伊藤潤二展 誘惑」

※詳細は世田谷文学館HPをご覧ください。

■ご来館にあたってのお願い

- 駐車場は台数が限られます。公共交通機関のご利用をお願いします。
- 展覧会の会期及び内容が、急遽変更や中止になる場合があります。ご来館前に当館ウェブサイトをご確認ください。

■交通案内

- 京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分
- 「千歳烏山」駅南口より徒歩約13分
- 小田急線「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用「芦花恒春園」下車徒歩5分



《街の風景(公園の子どもたち)》1933年頃

## 世田谷文学館

SETAGAYA LITERARY MUSEUM

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10

Tel. 03-5374-9111 Fax. 03-5374-9120

<https://www.setabun.or.jp/>